



今回は、飛騨市フィールドワークの報告です。

◇ 飛騨の自然や伝統を生かした産業・地域づくりについて学びました。



◇ アグリビジネス、観光、伝統技術、文化財の保全・活用を学ぶ

日 時： 平成30年8月9・10日

参加者： 生徒11名 教員3名

協 力： 渡辺酒造店、吉城高校、飛騨市観光課、樹杜屋あらべえ、飛騨市教委

<1日目> 渡辺酒造店酒蔵見学、古川の街並み散策と聖地巡礼

SGH 講演会でお世話になったアメリカ人蔵人コディさん、海外担当の木元茜さんに再会。渡辺酒造店の酒蔵を案内していただきました。講演を聴き、さらに現地で酒蔵を見学し、最後はコディさんと木元さんを囲んでの座談会。日本酒の未来、地域発のグローバル展開、日米異文化交流などの話題で盛り上がりました。

昼食をはさんで、吉城高校の生徒さんと引率の小澤先生と合流。6名の生徒さんに案内していただき、風情ある街並みを散策しました。最初は緊張気味でしたが、次第に打ち解け、アニメ映画「君の名は。」の聖地の話、普段の高校生活や進路の話など、街歩きをしながら様々語り合いました。最後に両校で市役所を訪ね、飛騨市観光課の井谷直裕さん、同地域振興課の横山理恵さんにお会いし、飛騨市の観光戦略についてうかがいました。飛騨市のお話はむろんのこと、岐阜県全体の問題や関市のとりくみについても様々な情報を教えていただきました。現在、インバウンドについて研究中の一年生にとっては、ありがたいアドバイスとなりました。

参加生徒11名のうち5名は帰路につき、残る6名は飛騨市宮川町の民宿をめざしました。途中、水害で寸断された高山線の復旧工事現場の横を通り過ぎ、自然災害の恐ろしさを改めて認識しました。





<2日目> 伝統工法を守る荒木昌平さん、飛騨みやがわ考古民俗館を訪ねる

2日目は、名古屋学院大学の今村薫先生（文化人類学）とゼミ生の皆さんに同道し、伝統的な建築技術を守る荒木昌平さんの工房を訪ねました。鉞（まさかり）、手斧（ちょうな）、大鋸（おが）といった伝統的な工具を使い、丸太を成形し板材にまで仕上げていく実演を見学し、一部体験もさせていただきました。

「飛騨まんが王国」（温泉とまんが図書館が併設されたレジャー施設）で昼食をとったあと、飛騨みやがわ考古民俗館の見学。飛騨市教育委員会文化財担当の三好清超さんに、国指定重要文化財の民具類、県指定文化財の出土遺物（旧石器・縄文時代）の解説をしていただきました。今回のメンバーの中には、5月に日本考古学協会でプレゼンを行ったメンバーが3名参加しており、展示されている縄文時代の土器や石器について、三好さんの解説を熱心に聞き、盛んに質問していました。「見学時間が足りない」「またぜひ訪ねたい」との声も聞かれました。



◇ 生徒の感想

1 日目

渡辺酒造店の見学から、普通に生活していたら知らないような日本酒の造りかたを教えていただいたし、独特なマーケティングプランや製法も印象的でした。コディさんも頑張って酒造りを続けて欲しいと思いました。

古城高校との交流では、飛騨の街並みの特徴や歴史ある建物について解説してもらった中で、古い建物に使われている「雲」という造りがおもしろいと思いました。その後の市の担当の方々（伊谷さん、横山さん）のお話は、これから何かするときにとっても役立ちそうな話でした。

2 日目

荒木昌平さんのまさかりパフォーマンスでは、今ではあまり見られない木の加工法が見れたし、実際に貴重な体験ができたと思います。

考古民俗館は、あの辺りの歴史がすべて凝縮されたような場所で、北陸と長野の間にあるからこそその土器はとても興味深かったです。また機会があれば是非行きたいと思いました。